

ご存じですか？

〳〳植えてはいけないケシ

ケシの仲間(ケシ属植物)は、色鮮やかで美しく、大きな花を咲かせるものが多いことから、ガーデニングや切り花用の植物として人気があります。しかし、一部のケシは麻薬の原料となる成分を含んでいるため、法律(あへん法等)によって栽培や所持等が禁止されています。このような〳〳植えてはいけないケシを、知らずに自宅で観賞用として栽培したり、庭や畑などで自然発生していたりする例が、開花時期の4〜6月にかけて、村内でも確認されています。



村内で自生が確認されたアツミゲシ

【〳〳植えてはいけないケシの種類】

▼ケシ(ソムニフェルム種)

▼アツミゲシ(セティゲルム種)

▼ハカマオニゲシ(ブラクテアツム種)

これらの〳〳植えてはいけないケシの疑いがある植物を発見した場合は、ひたしな保健所(☎265局5645)、または保健センターへご相談ください。なお、所有する土地で自生した場合は、なるべく早く抜いて可燃ごみとして処理してください。

【問い合わせ】保健センター(☎282局2797)

ふるさと歴訪―自然を探して―

ミツバアケビ(アケビ科)

村内に生育するアケビ科の仲間は、普通に見られる落葉性のミツバアケビとアケビ、まれに見られる常緑性のムベの3種類です。いずれも木本性のつる植物です。つるの巻き方は右手巻き(茎が伸びていく方向に右手の親指を出したとき、握った4本の指の付け根から指先方向に巻き付くこと)でフジとは逆です。ミツバアケビの葉の小葉(1枚の葉が裂けて小さな葉のように変化した葉は3枚、アケビは5枚です(写真①)。ムベの小葉は3〜5〜7枚(写真②)なので、小葉の枚数を七五三に例えて、めでたい植物とされています。

ミツバアケビの花は4月ごろに咲きます。花を付ける枝は垂れ下がり、下部に濃紅紫色の3枚のがく片が目立つ数個の雌花と、上部に多くの雄花を付けます。果実は秋に熟します。外側が裂けて果肉を出す様子を「開け実」といったこ



【写真①】(写真左から)ミツバアケビとアケビの葉



【写真②】ムベの葉

とから、「アケビ」の名前が付いたともいわれています。果肉の味は甘くポポー(バンレイシ科)の味に似ていると思います。子どものころ、春には雄花より大きな雌花をつまんで手のひらに乗せ、ほかの手で雌花の乗った手元をたたき、ひっくり返したり、秋には果肉を口いっぱいに入れ、甘い汁だけを吸って、たくさん種子を一齐に口から吹き飛ばすような悪遊びをしたりした記憶があります。果肉の中には多数の種子は、かみ砕くと苦みがあるので、動物はかみ砕かず飲み込みます。飲み込まれた種子は、消化されずに排出され、種子が広く散布されるのでミツバアケビにとっては好都合です。

葉やつるは民間薬、新芽は食用になります。アケビ細工のつるは、ミツバアケビが一番良いとされています。また、種子は秋田県で食用油として利用されています。機会があれば村内に普通に生育するミツバアケビの油を試してみたいと思います。

このように自然界の生き物は、ミツバアケビのように、人の生活に寄り添いあいながら生活していると思います。

茨城生物の会理事

内山 治男